

国思う啓蒙活動

平成22年3月6日



島津 義広 (博士の独り言)

はじめに - 啓蒙とは

一般に、馬を水辺に連れて来るところまでは容易だが、馬に水を飲ませるのは至難である（要旨）、との謂れがあります。この謂れが意味するところは、「水を飲みたい」、との意思が馬自身になれば、馬は水を飲むことはない、と。そう謂い表した喩えです。

これを人間の場合に約すとすれば、必ずしも適正とは謂えないのかも知れませんが、しかし、心に納得するところ、欲する意思がなければ、人は言動を変えることはない。示威的に圧力をかけても、罵声を浴びせても、本当の意味で人を変えることは困難である、と。この謂れは、その意味での、心に問う啓蒙の大切さを表す喩えとしてお話しできるのではないかと。このように考える次第です。本日は、この啓蒙の意味と意義を踏まえ、粛々とした国思う啓蒙活動について少々申し述べたく思います。

示威と啓蒙の違い

一般に、イベントにもとづいた活動形態があることは、みなさまにはご存知のことかと思えます。周知やアピールの意味合いが内包され、1つの活動形態としてあって然りと思えますし、それらを否定するつもりは毛頭ありません。行くとすれば、より効果的にアピールすべく工夫と努力を尽くすべきとも思えます。

しかし、率直に指摘すればそれらの本質はどうしても「示威行動」の域を出ず、数と力を以って是とするものです。何かといえばデモが起きる、あるいは、世界一のデモ大国とも指摘されている韓国にも、その社会的な傾向が目立っている点に興味深いものがあります。いわば、示威行動は感情に流されやすく、感情の発露の場になりやすい。参加する方々に連帯感や「行った」という実感はその場にあれども、また、折角のアピールの内容であっても、道行く多くの人々にとっては騒音としか感じ得ないのも事実です。そもそも、日教組や労組などが、このイベントを陳腐化させて来た背景も影響しているかに見受けておりますが。

一方、日本人の粛々とした啓蒙は人の心に問いかけ、とりわけ、人の理性に問うものです。理性あればこそ成り立つ人の心には、絶えず、本当のことを知りたい。事実を知りたい、という自らの本然的な問いかけが機能しています。たとえば、砂地に描いた三角形を見れば、理性の働きにより、正三角形を心に描き、理解でき得る能力が人には有ります。事実をもとに、人の心に問いかける。理工学者の端くれとして、それが啓蒙の本質であり、むしろ教育の基本にもあるべきと考えて止まない次第です。

洗脳と啓蒙の違い

洗脳は、妄想や虚構など、事実ではないことを、繰り返し植え付けるという、人として不自然な行為を指します。それが集団化したものが集団洗脳です。特殊な国々やカルトなどに共通しています。

その意味で、事実をもとに問う啓蒙は、洗脳とは正逆であり、むしろ、洗脳に対峙し、被害者個々に植え付けられた洗脳を解く上で、唯一有効な方法と謂えます。ある意味で、現代社会には虚構や捏造、妄想の類が横行しており、その中での啓蒙は、ことさらに重要であり、人としてあるべき、人間本来の働きかけではないでしょうか。

誘導と啓蒙の違い

誘導も毀日団体や特殊な国々の活動に顕著な要素です、また、残念ながら、日本と日の丸を語っているようであって、しかし、特定の団体や組織に誘導する動きも世に横行しているかに見受けられます。その様子は、たとえば、人々を乗せて走る列車のレールのポイントを切り替えて、掲げる理想とは異なる方向へ誘導してしまうにも等しい、と。このような誘導にさえ映る状況も見受けられます。

真の啓蒙が指し示す先は事実であり、事実によって不特定多数の良識を呼び覚ます。この一点にあります。ささやかですが、国を思う言動の上で、凜とした日本人の誇りと、厳とした「忍」を備えた魂があるべき、として、その一環として、ごく身近に可能なことを、と国を思う一対一の啓蒙を読者のみなさまに提案して来ました。元来、真の強者は示威の刃を見せることなく、先ず内なる心に刃を持つ。すなわち「忍」の一字を以って事に処す。これが日本人の美德が指し示す処でもあります。ブログを通じ、ごく身近に可能な書簡やファクシミリ、電話や葉書などを通じて、闇法案や毀日策動に対する、事実を元にした反駁の意を示し、あるいは、声を寄せ、また、これらに対峙しておられる国思う議員諸氏へエールを送り、国を思う政務活動を支援することを提案してまいりましたのも、その一端と謂えます。

国益を守る

政治には、国民の安全と生命と財産を守り、尊厳を守るべき基本使命があります。また、国民には、そのために存在を資する政治家を選ぶ義務があります。この基本は、いずこの国でも共通しているはずで、この基本に適うものを国益と謂い、反するものを国害とみなすべきです。

国益は、国民の安全と生命と財産を守り、尊厳を守ることを基軸とした内政外交の上で成り立ちます。この、ごく当たり前の基本を蔑（ないがし）にし、あるいは、この基本に優先するかのよう、特定の政党や団体の権利、権益の保持、保護を専らとする活動や行動は、必ずしも国益に沿ったものとは謂えません。

また、「国益」は、本来、この基本によって成り立つはずですが、国会答弁や政治討論会、あるいは、メディアのニュース解説などでは、上記の区別と整理が明確にできないままに、「国益」が論じられている傾向があるかに見受けられます。良識が点検すべき点がここにあり、見直すべき、本来の「国の成り立ち」の基本がこの点に集約されている、と謂えましょう。

国思う良識

「国思う心」を冠した論説委員殿（産経新聞）の年頭所感（左）を拝見し、個人的に思う処と由来が有り、普段は書かない事柄を含め、ここに、あらためて報告させていただければと思います。

小ブログでは、かねてより、日本のために在るべき人、資するべき活動、常々「国思う」と冠し、心ある人々にエールを贈り、また、およばぬ自身の身をも励ましてまいりました。

この「国思う」は、小ブログで用いる以前は、さほど多くは用いられていなかったと記憶しております。このことは旧来の読者のみなさまがよくご存知のことかと思えます。その事由は、国を支え、国を作るのは日本国民であり、その大多数は名も無き民の一人一人であり、拙き身もその例外ではない、と痛感したことにそもその出発点があります。「国思う」の意義には特別なことではなく、ごく身近に、可能なことを、との願いが込められています。そこから、日本のために、次世代を担う子どもたちのために、共有できる事実と針路があれば、と願い、ブログで用い始めました。

この「国思う」は、個人的にですが、少年の頃から心に温めて来た形容でもあります。後年に、尊敬する国会議員殿に手紙を書いたことがありました。思いがけなくも、「感銘を受けた」、と記され、その結びに、「国思う人は国士であり、若き国士は国の未来の財（たから）である」、との返礼をいただいたことがありました。以来、星霜を重ね、今日までずっと胸に抱き続けて来た良識の指針がこの「国思う」です。

日本人には、論旨と筋道の上で、物事を観て考えて、そして、判別し、総合的に対処する。事象に目覚めた時の、ここぞ、という時の進歩、進捗が実に早い。心底納得すれば、西欧の文化をも遥かに凌（しの）ぐ合理性をも発揮する。その底力をも兼ね備えた存在でもあります。その意味で、真実を共有する。その共有を広げて行くことは、次世代に向けて大変に有為で、且つ不可欠と思われれます。

国思う心と視点

思えば、少なくとも 2700 年以上の長きにわたり、日本がずっと日本で続いて来た。このような国は、他に類を見ません。幾多の先人の恩恵によって、日本が日本であることが、寸分も違わずに、今の日本へと続いてまいりました。この日本に生まれ育つことができたことは、実は大変に素晴らしく尊いことなのです。若い世代のみなさまほど、日本人であることに良い意味での自信を深め、日本に誇りを持っていただきたく思う次第です。

父母、先祖に感謝する心は、ここから生まれ、さらに、尊い命と引き換えに、この日本を守り育てて来た幾多の先人に対して眼（まなこ）を開き、感謝の念を育てる。その心を次の世代へと引き継いで行く。これが、日本人に欠かせざる徳分の一つと謂えます。

これらごく自然にあるべき心をもとに、私たちが今守るべきもの、そして、後代へ伝えるべきものを問う。ここに国思う視点もまた育つのではないかと、このように実感しております。

その意味で、日本の先人は、数多の業績を通じて、その明確なる答えをも後代の私たちに教えてくれている、と。このことに気づく思いがいたします。多少の紆余曲折、艱難辛苦はあろうとも、以ってこの日本が、本来在るべき基点に立ち還る時は必ず到来する。みなさまの存在が、子々孫々の世代から感謝される。その時代の到来を信じて止みません。日本は毅然とあるべきで、国思うみなさまの存在に、その実感を一層強くしています。

付録： 「国思う勉強会」 開催の意義と目的

政治ブログ「博士の独り言」が主催させていただく「国思う勉強会」は、お申し込みによる自由参加のシンプルな勉強会で、その企画と運営をボランティアで行わせていただいています。

有志の協力をいただくことがあります。強いて参加される方の個人情報厳守の意図もあり、基本的に、会場の設定と確保、案内状の作成と送付、勉強会で使用する資料等の作成等々については、私個人が行っています。それゆえ、会場の装飾等の余裕はなく、また、資料もいたってシンプルなものを使用しています。

また、勉強会を開催させていただく意義は、日本国民の 1 人として、同じく国を思う方々とテーマを共有させていただき、また、その中で、提示させていただく資料や、勉強会でのお話が、参加されたみなさまの日常のどこかで、何らかのご参考としてお役に立てただけの場面があれば有り難い、と。こう願って開催させていただいております。それゆえ、いわゆる、巷に有りがちな、何らかの組織作りや、あるいはカルト集団などに観られる特定の組織へ誘導する「セミナー」の類とは一切異なります。

以って、私個人には利益はなく、また名誉も求めず、むしろ身を削るのみです。しかし、先々で、こうした国思う相互の啓蒙の動きが、全国の方々の間で自然に広がれば嬉しい。また、一部で提案させていただいている「国思う学校」のモデルの 1 つにしていただければ有り難い。そう願うのみです。

「私」はどうあれ、守るべき至宝が存在する日本が守られるために、どこかでご参考のお役に立てていただければ、それで良い。この意義と目的をもとにした、淡々とした勉強会です。またの機会にも、ご参加をご検討いただければ幸いです。

平成 22 年 3 月 6 日

博士の独り言 島津義広

